

Quarterly

クォーターリー

高千穂

卒業特集号

2012/3 Vol.36





祝・卒業「継続的努力を！」 -そして、「気概・中庸・配慮を！」-

理事長

藤井 耐

平成23年度卒業生が誕生した平成元年は、私が、米国デラウェア州立大学に客員研究員として留学(同年4月より9月まで)していた年でもありました。

既に22年間の歳月が過ぎました。御父母の皆様方も、成長した君達の姿をみて、きっと喜ばれていることと思います。

ところで、今日までの君達は、御父母の庇護のもと大学教育まで経験させて頂いてきたわけですが、この4月からは、経済的自立・社会的自立・職業的自立としての段階にその第一歩を踏みしめることになるわけです。本学の「学風の指針」にみるように、「常に半歩」、すなわち、焦らなくてもよし。ただし、歩みを止めることなく、自らに付与された役割・職務を遂行し続ける努力を継続して下さい。「自立」とは「努力の継続性」を意味しているのです。努力の継続性無くして将来の安定した経済的・社会的・職業的基盤の構築は、成し得ないのです。

講義を含め、折にふれ君達には伝えてきましたように、これからの日本は、「人口減少・少子高齢化」、「経済・市場の成熟化」、「経営のグローバル化」、そして、「第2期核家族化」等、かつて経験したことのない経済的・人口構造的・家族構造的状況が顕在化することでしょう。君達はこの新たな状況下における人生80年・90年の長期ライフ・プランをデザインしつつ、日々の職業生活・家庭生活を充実させていかなければならないのです。焦ること無

く、ただし、歩みを止めることなく、真摯なる継続的努力を遂行する過程にて、ささやかな成長の実感を覚える時もあるでしょう。他者からの評価を得られる時もあるでしょう。自立の密度・程度も徐々に徐々に高まることでしょう。職業人としての成長と共に、人格的成長も伴うことでしょう。そのような青年として、そして、人間として成長し続けて頂きたいと思います。

私も昭和47年(1972年)3月に本学を卒業し、既に40年間の経過致しました。母校に奉職し(昭和50年)37年間の歳月が流れました。母校高千穂にて、「自立」への人生を歩み続けさせて頂いております。

平成23年度卒業生達も充実した人生を歩んで頂けますよう心より御祈り致します。そして、君達の成長を何よりも楽しみにされておられる御両親を安心させてあげられ得る人間として成長して下さい。





祝 卒業 －継続は力なり－

学長

成田 博

今春、晴れて高千穂大学を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業を迎えるまでの道のりは決して平易なものではなかったものと思いますが、いくつかの困難を乗り越え、晴れて卒業される皆さん一人ひとりに心から「卒業おめでとう！」と声をかけたいと思います。また、これまで長い間、学生諸君を支え、見守ってこられたご家族の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

学生生活の締めくくりとしての大学卒業とは、長い人生における1つの大きな節目であり、途中でくじけることなく、その節目へと到達したこと、1つの目標を達成したということに大きな意義があるといえます。大学生活を通して得たものは、知識、能力、技術、そして様々な経験や共に支えあった仲間など多様であり、また、最後まで努力を重ね、卒業を迎えたからこそ得られるものもあるはずです。それらは皆さんを人間的に大きく成長させる源泉となったものであり、今後の人生における大きな自信、財産、そして強い支えとなることでしょう。高千穂大学で培った力を信じ、仲間を信じ、自信を持って社会への一歩を踏み出してもらいたいと思います。

昨年発生した震災や原子力発電所の事故は、被災した人々の生活を一変させ、私たちのこれまでの価値観を覆す、あるいは、改めて問い直す機会を提供するとともに、日本の将来に暗い影をもたらすものとなりました。ま

た、現在の日本は、景気回復の実感はなく、先行きの見えない不安定な状況が続いており、多くの皆さんが就職活動において大変な苦労をされたものと思います。しかし、このような時代であっても、若い皆さんは将来への希望や夢を抱き、今よりも素晴らしい社会の構築に向けて努力を継続してもらいたいと思います。個々の目標に違いはあっても、多くの若者が自分の目標を設定してその実現に向けて努力を継続していくことは、きっと素晴らしい社会へと向かう力を生み出すはずです。これからの社会人生活においても、目標を設定し努力を積み重ねていくことはとても大切なことであり、そのことが皆さんに対して更なる力、自信を授けることとなるでしょう。高千穂大学で培った力を信じ、それぞれの目標実現に向けて邁進してくれることを期待しています。

社会ではこれまで以上に苦しい場面に遭遇することもあるかもしれません。また、社会人となっても、知識・能力、そして人間的にも更なる成長が求められます。高千穂大学の卒業生としての誇り、そして常に学び成長するための努力を継続する姿勢を忘れることなく、新たな環境においても信頼される人材として、皆さんが活躍されること、充実した日々を過ごされることを心より祈念しています。

そして、時には母校高千穂大学へと足を運び、後輩たちを激励してください。



自分を見つめなおし、 目標に向かって、全力で挑戦しよう！

高千穂学園 同窓会会長

福田 昌夫

第60期卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

高千穂の大学生活はいかがでしたか。高千穂の伝統である学風の指針、「常に半歩先立つ進歩性」を体得されましたか。また、信頼できる友人が沢山出来ましたか。きっと、多くの良い思い出を抱いて社会に巣立つことでしょう。

昨春、東日本大震災、原発事故が発生し、各地で大変な被害がありましたが、東北の被災者の人々の忍耐強さや健気で謙虚な行動に日本中、そして世界中が感動しました。皆さん方の中にもボランティア活動をされた人もいると思います。残念ながら一年経過した今でも未だ復興の形さえ見えない状況には本当に心を痛めています。このような状況下で皆さんは無事卒業出来たことを大いに喜び、ご両親はじめご親族の皆さんに感謝しなければなりません。

ギリシャに端を発した欧州金融不況は世界的混乱を招き、異常な円高や大震災の被害と共に日本経済は一段と悪化しています。そのため就職戦線は大変厳しい状況と思いますが、是非、勇気と自信を持って、目標にチャレンジしてください。

今年は世界的にも政治や社会が変革期を迎えています。主要各国で首脳の交替が予想され、外交情勢に大きな変化が出るでしょうし、内政的にも、所得税増税や年金問題で混乱が起きており、日本の行く先がよく見えきません。

この機会に、自分を見つめなおし、社会的自立を目指して、志を立て、将来展望を見極めて明確な目標を立てる事です。そして、あとは一直線に目標に向かって全力で挑戦あるのみです。大きな壁に必ず何回かぶつかりますが、くじけず、諦めず、ひたすら努力を続ければ必ず志を達成できます。

人生八十年時代、これから60年間は自己研鑽の人生を歩むことになります。毎日を惰性で無為に過ごしてはなりません。生き甲斐とは何かをよく理解し、充実した日々を送って下さい。高千穂大学の卒業生は各方面で活躍していますが、皆さんも負けずに快活に活躍することを祈っています。

同窓会は全国に27支部があり、それぞれの地域で卒業生の交流親睦をはかっています。地方に勤務された人は是非その支部に連絡してみてください。また今後、母校を忘れずに同窓会総会や高千穂祭などに参加して、仲間の結束を確認し合い、旧交を温めていただくようお願いいたします。

皆さんの旅立ちを心より祝い、ご健闘をお祈りします。





在学生へ贈る言葉

第15代学友会会長
人間科学部

渡辺 一充

私が高千穂大学に入学してから早4年の月日が経ちました。振り返ってみると、色々なことがあった4年間だったように思います。

入学当初、知人が周りに誰もおらず、右も左もわからないような状態で大学にやってきました。一人暮らしを始め、高校の時と大きく環境が変わり、期待と不安が入り混じったような…いえ、不安の方が大きい状態での生活は決して楽なものではありませんでした。しかし、それでも4年間の大学生活を過ごせたのは先生方や事務局の皆様、そして徐々に増えていった友人たちの支えがあったからだと思っています。

今、私から在学生の皆さんに伝えたいことは「大人になること」です。この言葉ではちょっとわかりづらいですね。挨拶がしっかりとできたり、人の気持ちを考えられるようになったりできるようになってほしい、つまりは人間性を伸ばしてほしいということです。当たり前に見えることもかもしれませんが、その当たり前ができるかできないかで社会の自分に対する評価は大きく変わります。学友会など学内でできることや、アルバイトなど学外でできることの中に自分を成長させてくれる何かが必ずあるはずです。それに目を背けず、しっかりと向き合ってください。私のような若輩者が言えることはありませんが、そういったことの積み重ねで、皆さん

は「良い社会人」になっていけるはずです。

最後になりますが、高千穂大学での4年間を支えて下さった数多くの方にこの場を借りて感謝を申し上げるとともに、在学生の皆さんが充実した大学生活が送れることを心から願っております。





答 辞

卒業生代表
商学部

黒澤 和晃

厳しい寒さも和らいで、麗らかな春の訪れを感じられるこの佳き日に、私たちは無事に卒業の日を迎えることができました。

本日は、藤井耐理事長、成田博学長をはじめ、各学部の諸先生方のご臨席を賜りまして、私たち卒業生の晴れの舞台として盛大な卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。卒業生を代表して厚く御礼を申し上げます。また、私たちの晴れの舞台のためにお忙しい中にも関わらず御臨席を賜りました来賓および保護者の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

4年前の2008年4月4日。私たちはそれぞれに大きな期待に満ちて、それと同じだけの未知への不安も抱きながら、この場所で高千穂大学生としての最初の一步を歩み出しました。新たな環境に戸惑いを感じる私たちに、藤井理事長はフレッシュ・オリエンテーションで「君たちは高千穂で過ごす4年間にきちんと目標を持っているか」と叱咤激励の意味を籠めて喝を入れて下さいました。当時は理事長の熱意に大きな衝撃を受けたことが今も記憶に鮮やかに残っています。親切な先生方や先輩方、大学での様々な価値観を持った友人達との出会いによって、本学での生活にすぐに順応することが出来、4年間の充実した日々を過ごすことが出来ました。今になって思い返すと、藤井理事長が入学時におっしゃって下さった言葉の深さがしみじみと感じられます。

卒業生の皆さん。卒業を迎えられて、これまでの4年を振り返ってみてください。楽しいこと、嬉しいこともあり、つらいことや悲しいこともたくさんあったと思います。

私たちの世代で特筆すべきものとして、昨年3月11日に未曾有の大災害である東日本大震災を経験しました。多くの方が悲しみに暮れ、多くの尊い命が失われました。昨年は本学でも残念ながら卒業式を行うことが出来ませんでした。私たちは、無事に卒業式を挙行していただけることにも深く感謝しなければなりません。

また、震災の災禍に加えて厳しい経済情勢から“就職氷河期”とも言われ、就職活動や進路開拓に非常に難儀し、今も努力を続けられている方もいらっしゃるかと思います。

卒業生の皆さんのなかには、震災と不況の影響で、最悪な時代に社会人になってしまったと嘆いている方もいらっしゃるかもしれません。しかし、私は「逆境こそ寧ろチャンスだ」と考えています。ときに理不尽な評価や扱いを受けることもあると思います。私は、そういう時は結果で証明しようという気概で臨むことにしています。諦めずに努力を重ねて結果として証明されれば、それは“不合格”ではなく“合格”なのです。

本日、卒業する私たちは高千穂大学での4年間を通して、さまざまな試練を乗り越えてきました。本学での様々な経験をもとに自信と誇りを胸に羽ばたいていきます。

私にとっての高千穂大学で過ごした4年間は“光陰矢の如し”という諺のようにあっという間に通り過ぎていきました。大学では本分の学業に全力で取り組みました。結果として、さまざまな知識を身に付け、学問の無限の可能性を知りました。これは、自分にとって社会に出てからの大きな糧ともなりますが、高千穂大学で学び得た知識や経験を机上の空理空論に留めることなく、「先生と近い大学」で培った「常に半歩先立つ進歩性」の気概をもって幅広い応用力を身に付けて社会に柔軟に適合し、活躍できるよう有意義に活かしていきたい所存でございます。

今日まで私が高千穂大学での学生生活を有意義に送るためには沢山の方々のお支援がありました。暖かく見守ってくれた両親をはじめ、ゼミ担当の庄司真人教授、寺内一教授をはじめ諸先生方、大学4年間での友人たち、そして、ゼミ生。衷心より厚く御礼を申し上げます。

最後に、今日まで私たちにあたたかい激励およびご指導を下さいました、藤井理事長、成田学長をはじめ、さまざまなことを教えて下さった諸先生方、きめ細やかな素晴らしい対応で学生生活を支援して下さいました事務職員の皆様。重ねまして衷心より御礼を申し上げます。本日、卒業を迎えられる諸氏の未来が希望に満ちて前途洋々であること、後輩の皆様方の更なる御健闘、御活躍を心よりお祈り申し上げ、高千穂大学のより一層の発展と躍進を願いまして、答辞の言葉とさせていただきます。



卒業生へ贈る言葉

第16代学友会会長
商学部3年

大西 洋平

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。この高千穂大学で過ごした4年間という日々は皆様にとってどのような日々でしたか。その中には楽しいこと、辛いこと、嬉しかったこと、悲しかったことなど、たくさんの思い出が詰まっていることでしょう。その日々が卒業生の皆様にとって心のよりどころになっていることと思います。

私達後輩は、いつも先輩方のお世話になってばかりいました。入学して間もない時期に行われたフレッシュャーズオリエンテーションでは、授業など大学生活における不安を聞いて頂き、とても嬉しかったことを覚えています。ゼミではどのような活動をすれば良いのか分からず、右往左往していると声をかけて下さり、優しく接して頂きました。部活動においては時に厳しくもありながらも、目標に向かって真剣に取り組んでいる先輩方が私達後輩の道標となっていました。ほかにもたく

さんの思い出が私達の中にあります。先輩方にも私達と一緒に過ごした大学生活が、良い思い出として残ってくれていれば、とても嬉しく思います。

これから社会人としてそれぞれの道を歩んで行く皆様には、これまで以上に大きな壁にぶつかることもあると思います。そんな時はこの高千穂大学で身に付けたものを思い出して下さい。それが卒業生の皆様を支えてくれる力となるはずです。

最後となりますが、多くの先輩方から受け継いだ高千穂大学の伝統をより良いものにするよう、私達はこれからも努力していきます。そんな後輩達に会いに、卒業後もぜひ高千穂大学へ足を運んで下さい。後輩一同心よりお待ちしております。卒業生の皆様のご健闘をお祈りし、贈る言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。





送 辞

在学生代表
人間科学部

永倉 佑華

卒業生の皆様、この度はご卒業おめでとうございます。在学生を代表し、本学を巣立ち行く皆様へお世話になった感謝と激励の意を込め、心よりお祝い申し上げます。

高千穂大学で過ごした4年の月日は、どのようなものだったでしょうか。日々の講義、友人と過ごした毎日、ゼミナールでの研究・発表、クラブ・サークル活動や課外活動、アルバイト等、充実した日々を送られていたことと思います。この4年間は決して楽しいことばかりではなく、数多くの困難に直面し、時には挫折してしまいそうなこともあったかもしれません。しかし、強い意志と自らの手で進むべく道を切り開き、この時を迎えられているのではないのでしょうか。それら大学生活での経験の全てが糧となり、今後開花されますことを在学生一同、心より願っております。この貴重な日々を共有できたこと、皆様と出会い、ご指導ご鞭撻いただけたことを心から感謝しております。

昨年の未曾有の大震災。地震による大津波や原発事故により、多くの方々の尊い命が失われ、1年経った今でも不自由な生活を送り、心を痛めている方々が大勢いらっしゃると思います。そういった中で、こうして今、命があることや、思いやりや優しさによって人と人とがつながっていくことの大切さ、どんな場所・状況にあっても人は一人ではないということを実感しました。ましてや、この高千穂大学で出会い、共に日々を過ごした仲間は、何者にも代えがたい宝となり、深い絆で結ばれていることと

思います。今日、無事に喜びの中でご卒業を迎えられる皆様。今日この時は決して別れの日ではなく、お互いの絆をさらに深め、新たな人間関係を築いていく始まりの時であると思います。

また、今皆様は将来や社会へ大きな希望や不安を胸に、新たな旅立ちを迎える準備をされていることと思います。今日の経済状況は、震災の影響でさらに厳しくなり、急激な円高や電力問題などにより、これまでにない困難や乗り越えなければならない壁が待ち受けているかもしれません。しかし、困難が多い時代にあつてこそ、この高千穂大学で培った能力や経験、仲間との絆が必ずや確かな原動力となり、明るい未来を切り開いていくことと信じております。

高千穂大学におります私たち在校生もまた、世に有為な人材として役立つべく、更なる勉学、各種活動に打ち込む決意であります。そして、将来、再び出会える日を楽しみにし、益々精進してゆきたいと思います。多くの卒業生、ご支援して下さった方々が築いてこられた高千穂大学の伝統を大切に堅持し、更なる発展のため意欲的に活動・貢献していくことをお約束することと共に、新たな旅立ちを迎える皆様方のご活躍とご健康を祈念し、在学生を代表して心よりご卒業のお祝いを申し上げます。

栄えある 功労賞受賞者決まる

平成23年度功労賞受賞者が決定しました。本賞は、本学表彰規程および表彰規程に関する細則により、学生として他の学生の範となることを行った者、学友会活動の振興に顕著な功績のあった者において功績を残した学生を表彰するものです。

受賞者ひとり一人の努力の成果が認められた榮譽あるものであり、卒業後もよりいっそうの精進を重ね、有為な人材として活躍されることを期待してやみません。



渡辺 一充
学友会 会長
ゼミナール連合本部 委員長



長濱 利泰
学友会 副会長兼企画局長



橋本 志穂
学友会 副会長



小林 静穂
学友会 副会長
体育会本部 委員長



坂口 美紀
学友会 会計監査局長
体育会本部 会計局長



小山 拓也
学友会 広報局長
高千穂祭本部 委員長



北村 大輝
学友会 企画局員
学術文化団体連合会本部 委員長



中井 淳
学友会 広報局員
学術文化団体連合会本部 会計局員



菊地 真央
学友会 書記局員
ゼミナール連合本部 会計局長



関 裕太
学術文化団体連合会本部 副委員長



榎 あんな
ゼミナール連合本部 副委員長兼企画局長



山下 泰輔
ゼミナール連合本部 渉外局長

卒業生の皆さんへ

高千穂学園 同窓会事務局

ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、卒業されますと高千穂学園同窓会の会員となります。心より歓迎いたします。

会費は、既に在学中に卒業後25年間分を授業料納入時に納入していただいております。

同窓会の会員数は32,000人で、北は北海道から南は宮崎県まで地区高千穂会が27支部ありそれぞれ活発な活動を行っています。

会員の皆さんへ同窓会は以下の色々なサービスの提供を行っていますのでご案内いたします。

○同窓会主催の総会・忘年懇親会への参加案内

平成24年5月26日(土)午前11時より総会と懇親会を学内で、平成24年12月1日(土)忘年懇親会(場所は未定)で、開催いたしますので友人とお誘い併せの上、ご参加して下さい。その都度、同窓会からご案内いたします。

○同窓会会報誌「TAKACHIHO」の送付

年2回(3月・9月)発行、学園・大学の近況報告、会員からの投稿、各支部の活動報告、大学のクラブ・ゼミ活動の近況など様々な情報を取り上げております。皆様からの投稿や近況報告などをお待ちしております。

○地区高千穂会への参加案内

同窓会地区高千穂会は、現在全国27支部があり、懇親会を開催しております。開催案内は地区高千穂会から発送いたしますので是非参加し、OBとの交流を図ってください。

○会員名簿の整理

名簿の管理は同窓会の最も大切な任務であり、また会員の個人情報情報を慎重に取り扱っております。住所や勤務先の変更がある場合は速やかに同窓会事務局へお知らせ下さい。

○ホームページによる情報の提供

ホームページには同窓会の年間活動状況などの情報を随時掲載いたしますのでご覧下さい。http://www.takachiho.jp/ (大学のHPから「同窓生の方へ」をクリックしてください)

ご意見やご要望等がございましたらメールでお問合せ下さい。

E-mail:Dosokai@apricot.ocn.ne.jp



高知県高千穂会(高知市おおりやにて開催)

高千穂会一覧表

支部名	会長	卒回	住 所	通信員	卒回
北海道高千穂会	吉田 兵一	大学 21	〒071-1224 上川郡鷹栖町北野東四条 3-2-1	野西 光一	大学 32
青森県高千穂会	小山内 明	大学 19	〒030-0915 青森市小柳 6-15-5	珍田 大吾	大学 47
岩手県高千穂会	菊地 幸吉	大学 22	〒023-0003 奥州市水沢区佐倉河字九蔵田 83-1	神貫 静夫	大学 24
宮城県高千穂会	佐藤 尹昭	旧中 34	〒981-3201 仙台市泉区泉ヶ丘 2-13-17	小山 裕寿	大学 28
秋田高千穂会	諸井 富喜雄	大学 5	〒010-0511 男鹿市船川港船川字新浜町 9	星宮 弘宣	大学 21
山形県高千穂会	池田 惇	大学 17	〒990-2464 山形市高堂 1 丁目 4-18	北村 潤	大学 40
福島県高千穂会 会津地区	大塚 敏久	大学 27	〒965-0857 会津若松市柳原町 2-7-21	古川 洋平	大学 56
福島県高千穂会 中通地区	八巻 正衛	大学 18	〒960-0231 福島市飯坂町平野字道南 10	谷野 信夫	大学 25
福島県高千穂会 いわき地区	草野 洋治	大学 17	〒971-8101 いわき市小名浜字本町 26	瀬田 恒靖	大学 18
茨城県高千穂会	高橋 正健	大学 18	〒321-0944 取手市岡 1032-3	鈴木 知明	大学 45
栃木県高千穂会	高松 利光	大学 19	〒343-0004 宇都宮市東峰町 3008-17	奥山 茂	大学 30
埼玉県高千穂会	長野 勝	大学 22	〒343-0004 越谷市大松 76	鈴木 喜章	大学 23
千葉県高千穂会	湊川 国威	大学 14	〒273-0116 鎌ヶ谷市馬込沢 6-4	藪田 徹心	大学 32
東京都高千穂会	山本 雅道	大学 20	〒190-0033 立川市一番町 2-11-46	横川 浩一	大学 36
神奈川県高千穂会 横浜・川崎地区	未 定			吉田 孝一	大学 18

支部名	会長	卒回	住 所	通信員	卒回
山梨県高千穂会	古屋 久	大学 18	〒409-1203 甲州市大和町初鹿野 1684	坂本 正臣	大学 29
新潟県高千穂会	荒川 敏幸	大学 29	〒940-2033 長岡市上除町甲 1760-2	今成 直人	大学 31
石川県高千穂会	荒木 雅之	大学 28	〒920-0341 金沢市寺中町チ-29-5	柴田 昇	大学 28
静岡県高千穂会	会長代行 山本 正平	大学 8	〒421-0523 牧之原市波津 793	土方康太郎	大学 20
中京高千穂会	土屋 正俊	経専 31	〒465-0062 名古屋市中区松井町 289	内藤荘之助	大学 5
三重県高千穂会	西村 透	大学 28	〒515-0802 松阪市獅師町 428-139	中島 文仁	大学 26
関西高千穂会	木村 勇	大学 1	〒520-0533 大津市朝日 1-1-8	伊藤 憲明	大学 31
広島県高千穂会	西林 洋治	大学 20	〒738-0011 廿日市市駅前 4-34	小谷 隆春	大学 22
山口県高千穂会	未 定			池田 辰男	大学 23
香川県高千穂会	猪熊 憲雄	大学 22	〒761-2308 綾歌郡綾川町羽床下 277-1	小河 正昭	大学 32
高知県高千穂会	島崎 茂	大学 22	〒783-0041 南国市岡豊町定林寺 208	真鍋 豊志	大学 29
九州北部高千穂会	最上 政則	大学 19	〒805-0019 北九州市八幡東区中央 3-5-7	関谷由紀房	大学 18
宮崎県高千穂会	田村 努	大学 22	〒880-0930 宮崎市花山手東 2-33-2	南 貴彦	大学 35
沖縄県高千穂会	未 定		設立準備中		

平成 23 年 11 月 8 日 現在

卒業生の図書館利用について

卒業生の方も図書館が利用できることをご存知ですか？
本学は卒業生の皆さんの社会活動を応援するために、
図書館を開放していますので、多めに利用して下さい。

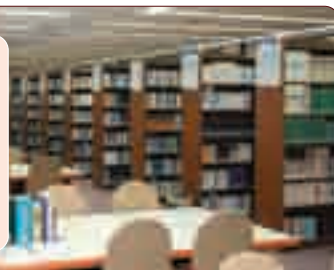
図書館の情報はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.takachiho.jp/>

☎ 03-3313-0147

利用方法

図書館総合カウンターで「図書館利用カード」発行の手続きをお取り下さい。その際、身分証明書の提示と登録料1,000円が必要となります。図書の貸出も行いますが、貸出期限や利用時間が在学学生とは異なる場合がありますので確認して下さい。



証明書発行の申請について

卒業生が卒業証明書などの証明書の発行を必要とする場合はインフォメーション窓口への直接申請（以下「窓口申請」、郵送による申請（以下「郵送申請」）の2種類があります。

「窓口申請」方法と証明書の受け取り

- ①窓口備付の「証明書発行申請用紙」に必要事項を記入し交付手数料をお支払いいただきます。
- ②申請後3日から7日以内（土日・祝祭日を除く）に発行いたしますので、所定期間を経過してから事務取扱時間（平日9時から16時30分、土曜日9時から11時30分）に直接来校されての受け取りか、郵送での受け取りになります。

「郵送申請」方法と証明書の受け取り

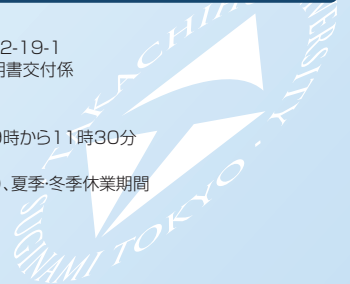
- ①必要事項（申請者氏名・フリガナ・ローマ字氏名（「英文卒業証明書」と「英文成績証明書」のみ）・生年月日・申請者住所・電話番号・入学年月日・卒業年月日・学籍番号・使用目的・証明書の種別と必要数）を記入した文書（形式は自由）を作成してください。
なお、卒業後の氏名を変更された方は、在学当時の氏名を必ずご記入ください。
- ②①の「文書」と、交付手数料と同額の郵便小為替（郵便切手でも可）と住所・氏名を記入した返信用封筒、返信用切手を同封して申請してください。
- ③申請後3日から7日以内（土日・祝日を除く）に発行いたしますので、それ以降郵送での受け取りになります。
- ④なお、証明書発送後の郵便事故や不着には責任を負いかねますのでご承知おきください。証明書送付方法に「速達郵便（+270円）」や「簡易書留郵便（+300円）」を利用することをお勧めします。

「証明書」の種別と交付手数料

「卒業（修了）証明書」	200円
「成績証明書」	500円
「英文卒業（修了）証明書」	1,000円
「英文成績証明書」	2,000円
「単位修得証明書」	500円
「在学期間証明書」	200円

申請先と事務取扱時間等

- 申請先
168-8508 東京都杉並区大宮2-19-1
高千穂大学インフォメーション証明書交付係
☎03-3313-0431
- 事務取扱時間
平日9時から16時30分、土曜日9時から11時30分
- 事務局休業期間
日曜、祝日、創立記念日（5月27日）、夏季・冬季休業期間



白根セミナーハウス

ここにしかない四季があります。

- 北を仰ぎ見れば、白い綾線の美しい草津白根山、少し歩けば、雄大な浅間山もその噴煙とともに望むことが出来ます。
- 爽やかな風、澄んだ空気、素晴らしい自然に囲まれたセミナーハウスを卒業後も家族や気の合う友人と利用いただけます。テニスやハイキング、紅葉に温泉、スキーと四季を通じて楽しむことの出来る白根セミナーハウスへ是非おいで下さい。



送迎バス	万座・鹿沢口駅からセミナーハウス間の送迎を行っていますので、希望される方は申し込み時にお申し出下さい。
申込方法	予約は利用日の2ヶ月前から受付を開始します。大学においていただけない方はまず 総務部（TEL 03-3313-0141） へご連絡ください。
定休日	毎週水曜日が定休日ですので、計画を立てる際にはご注意ください。
施設	収容人員50名 客室8室（エアコン、テレビ完備）食堂50席 駐車場10台 セミナールーム 野外バーベキュー（5月下旬～9月末） テニスコート バドミントンコート 卓球台
利用料金（1泊2食付）	卒業生 4,000円
取り消し及び変更	使用日の3日前までに総務部（TEL 03-3313-0141）までご連絡下さい。それ以降の取り消しは、原則として利用料金の払い戻しはございません。

利用者心得

- ①チェックイン13:00 チェックアウト10:00
- ②公共利用場所（食堂等）の使用は午後9時00分までとする。
- ③利用者は、使用許可書を管理人に提出し、宿泊者名簿に必要事項を記入のうえ、部屋割を受けること。
- ④利用者は、管理人の指示に従い部屋の清掃、整理、整頓、食器の後片付け等は各自で行うこと。
- ⑤施設、備品等を使用するときは、あらかじめ管理人に届け、指示に従うこと。破損した場合は、その実費を弁償すること。
- ⑥火気には特に注意し、喫煙者はマナーを守ること。
- ⑦施設内の風紀、秩序を乱したり、他人の迷惑となる行為をした者は以降の使用を禁止する。

- 所在地 〒377-1712 群馬県吾妻郡草津町前口3-107 TEL 0279-88-4026
- 交通 上野より（直通又は渋川乗り換え吾妻線）万座・鹿沢口駅下車、送迎バスがあります。（約20分）
関越自動車道、渋川・伊香保ICより約1時間
上信越自動車道、碓井峠ICから鬼押ハイウェイでの利用も可能



長年にわたりセミナーハウスの管理人をお願いしている戸部ご夫妻。



学生会セミナー風景

ホームページでもセミナーハウスの詳しい情報をご覧ください。 <http://www.takachiho.jp/>

編集後記

▼本年度第60回目となる卒業式において、商学部263人、経営学部222人、人間科学部77人、大学院修士46人、大学院博士1人の合計609人の卒業生を送り出す事となりました。▼皆さんにとって高千穂大学で過ごした月日はいかがだったでしょうか、大学時代に学んだ事は今後の人生で大きな糧となることと思います。さらに大学で得た友人は一生の宝となることでしょう。大学には同窓生の交流の場として同窓会がありますので是非足をお運び下さい。私たち教職員も皆さんとまたお会いできる日を楽しみにしております。▼卒業生の皆さんは、これまでご父母をはじめ多くの方々の指導や支援により今日という日を迎えたことでしょう。この日をひとつの区切りとし、お世話になった方へ感謝の気持ちを「ありがとう」の言葉にしてみてはいかがでしょうか。卒業生の皆さん「おめでとうございます」。（編集室）

編集委員

- 編集長 吉崎信彦
- 委員 高橋 拓
深津 剛



喫煙に関するルールについて

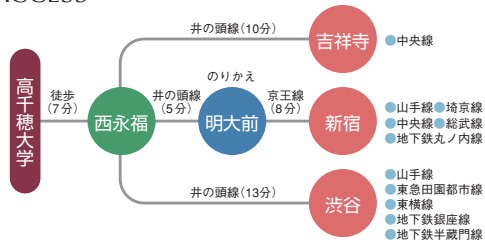
本学キャンパスのある杉並区では、条例により区内全域で、歩きたばこや吸い殻のポイ捨てを禁止(一部の路上禁煙地区では条例違反者から過料を徴収)しています。

本学においても、構内の指定された場所以外での喫煙は禁止とし、また、通学路等での喫煙についても歩きたばこや吸い殻のポイ捨てについては厳重に注意を与えています。

しかし、いまだにルールを守らない喫煙者が多く見受けられ、非喫煙者のみならず近隣住民の方々、ルールを守って喫煙している人にも多大な迷惑を掛けることとなっています。

高千穂大学の学生として、節度ある行動をとり喫煙マナーの向上を心がけてください。

ACCESS



- 山手線・新宿駅または渋谷駅から西永福駅(井の頭線)まで13分
(新宿駅からの場合は、明大前のりかえ)
- 中央線・吉祥寺駅から西永福駅(井の頭線)まで10分
- 西永福駅から本学まで徒歩7分

CAMPUS MAP



✉ soumu@gac.takachiho.ac.jp

Quarterly 高千穂

卒業特集号

Quarterly高千穂 卒業特集号 第36号

発行責任者: 吉崎信彦 発行: 高千穂大学

〒168-8508 東京都杉並区大宮2-19-1 TEL 03-3313-0141

発行日: 平成24年3月20日 無断転載・複製不可

